

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	2018 年度
氏名	佐々木 純子	指導教員 (主査)	山岸 まなほ

論文題目	放射線への正しい知識の修得と不安を払拭するための看護師卒後教育内容の検討
------	--------------------------------------

本文概要

目的：臨床にて看護師が関わる事の多い放射線治療や検査に対する正しい知識について講義内容を考案・実施し、知識の修得・不安の軽減・行動変容に効果があるか明確にする。

方法：一般病院に従事する看護師 2 病院 95 名に対して、放射線への正しい知識の修得と不安を払拭するための講義をおこなった。講義効果を検討するため、講義前・講義後・講義 3 か月後の調査を行った。放射線量・放射線による人体への影響・放射線被ばくの防護・放射線被ばく等に関しての不安・放射線防護行動・患者への対応についての設問と対象者の属性について調査した。

結果：調査回答者は、講義後 95 名 (100%)、講義 3 か月後 93 名 (98%) である。放射線の知識について「講義前」と「講義後」、「講義前」と「講義 3 か月後」で変化があったか否かについて、マクネマー検定を用いて確認した。2 問以外の全ての問いにおいて、有意差があった。(p < 0.05)。また、知識に変化があった者とそれ以外の回答者の属性に差異があるかについて X² 検定を用いて確認した。全ての属性と関連はみられなかった。放射線への不安や行動変容の講義前後の差を Wilcoxon の符号付順位和検定を用いて確認した。全ての設問において直後の回答よりも 3 か月後の回答により不安や間違った行動変容が見られたが、講義前より有意に少なかった (p < 0.05)。不安や間違った行動と属性に関連があるかについて、マンホイットニーの U 検定を用いて確認したが、統計的に有意な関連はなかった。

考察：講義は一部の設問以外において、直後・3 か月後の知識の向上が見られ有効であった。より多くの知識を学ぶよりも、病棟看護師に直接関わりのある検査などに特化したため、効果が得られたものとする。知識の修得は属性と有意な関連しなかったため、放射線知識は看護基礎教育や勤務経験に左右されないと考える。また、今までの看護基礎教育もしくは勤務経験では、放射線看護に必要な知識が修得できていなかったことが推測できる。講義は、放射線に対しての不安や間違った行動を良い方向に変化できた。短時間でも、知識を持つことにより、行動変容を可能にすることができることを示した。放射線に対しての不安や、間違った行動については、どの属性とも有意な相関はなかった。全ての看護師は、正しい知識を修得することによって行動変容が可能になるものとする。

結語：放射線教育は、看護師として臨床業務に携わる早い時期に臨床業務に特化した実践に役立つ知識を修得することにより、正しい行動・不安の軽減を図ることができる。

キーワード：放射線、卒後教育、知識、不安、行動変容